

個人テーマ 国語科を中核とした言語活動の充実

テーマに基づき

- (1) 普段の授業の中で言語活動（班による話し合い、書く技術の向上など）
- (2) 手紙やレポートの書き方、スピーチなど国語科以外でも利用可能な技術習得などに取り組んだ。以下はその実践の中の一つである。

- 1 実施学年と実施日 3年生 10月5日（水）5限目
- 2 単元名 5 論理の展開 説得力のある文章を書こう
- 3 目標
  - ・意見文を書くための内容を自分の力で考えたり、他の人の意見から選択したりする。（書く）
  - ・根拠を明らかにしながら構成の整った主張文を書く。（書く）
- 4 学力向上プランとの関係（カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応）
  - ・言語活動を充実させ、根拠や筋道を明確にした表現活動を指導する。（→1）
  - ・小集団活動を活用し、多面的・多角的に思考したり自分の考えを深めたりできるよう指導する。（→2）
- 5 学習の流れ
- ① 本時の学習課題をつかむ。中学生に携帯電話は必要か？ということについて意見文を書こう
- ② 賛成意見または反対意見の根拠を考える。③ 班で話し合い根拠を2つに絞る。
- ④ 根拠に対する批判や解決策を考える。⑤ 班の話し合いの結果を全体で確認する。（一斉指導）
- ⑥ 自分の立場を決める。⑦ 前時に学んだ構成にしたがって意見文の骨格を作る。
- 6 成果と課題

小集団活動における言語活動について

成果 ・「2つに絞る」という指示によって話し合いが活発になった班もあった。

- ・小集団で話し合うことで、具体的な話し合いにつながり、意見文を書く際に十分参考となる根拠を提出することができた。

- 課題 ・安易に多数決で決めてしまう班もあった。したがって「小集団活動を活用し、多面的・多角的に思考したり自分の考えを深めたりできるよう指導する（学力向上プラン）」ことが十分にできなかった。
- どれかを「選ぶ」という指示ではなく、案を出し合い良いものを作り上げる（練り上げる）という指示が有効だったかもしれない。
- ・短冊に書かせた根拠には、説明不十分で意味の分かりにくいものがあった。
- （ア）一斉指導の中で直したが、今後は相手意識を持たせ、適切な表現を追求するという気持ちを持たせたい。班の話し合いの中で、「この表現で意味通じるかな？」といった確認の言葉が出てくるようにさせたい。（イ）班活動中の机間巡視の際の指導を適切におこなう。

今年度を振り返って さまざまな形の授業に挑戦することができた。授業のたびに開いていただいた整理会では貴重なご意見をいただいた。その一方で、国語科の取り組みを他教科等に生かしていくための具体的提案が不十分だった。今後はこの点を充実させていきたい。

# 社会科実践レポート

山下 史人

個人テーマ 学びあいと高めあいを目指した発問・指示の工夫

1 実施学年と実施日 3年生 10月14日(金) 5限目

2 単元名 7 三権の抑制と均衡

3 目標

- ・ 三権分立のしくみがとられているのはなぜか考えさせる。

4 学力向上プランとの関係(カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応)

- ・ 資料を根拠にして自分の考えをもち、相手に説明する。(→1)
- ・ 国の権力が一つに集中するとどうなるか考えて書く。そして、話し合いで多様な意見が出されるなかで、課題について自分の考えを深めたり、補強したりしていく。(→2)

5 学習のながれ

導入 ① 教科書の新聞記事と図「三権の抑制と均衡の関係」を見て、新聞記事は「国会」「内閣」「裁判所」のどれに関連するか考える。

② 課題「三権分立のしくみがとられているのはなぜ。」をノートに書き、確認する。

展開 ③ プレゼンテーションを見て、国民審査の説明を聞き、2択クイズをするなかで、「尊属殺人重罰規定違憲判決」「薬事法距離制限違憲判決」を例に違憲審査制を理解する。

④ 前もって書いてもらったカードを利用したクイズをするなかで、図「三権の抑制と均衡」について読み取る。

⑤ 図「三権の抑制と均衡の関係」を見て三権分立のしくみがとられているのはなぜか。自分の考えを書く。

⑥ 班で自分の考えを発表する。班のリーダーがどのような考えが出たのか、全体に発表する。

まとめ ⑦ 三権分立のしくみがとられている理由について、再度まとめる。

6 成果と課題

「学びあいと高めあいを目指した発問・指示の工夫」と関連して

成果 ・ 教科書をペアごとに交互に読んだり、2択クイズやカードを利用したクイズに全員で取り組んだりすることにより、授業に参加する意欲が高まったと考える。

・ 自分の考えを相手に伝えるために、言葉だけでなく図示して分かりやすく説明していた。

・ 話し合いや発表の場をもつことにより、課題に対して自分の考えを補強したり、新たな考えを知ったりすることができた。

課題 ・ 課題に対する答えが限定されてしまった。以下の二点が改善案として考えられる。

(ア) 違憲審査制と関連して「国会と裁判所、強いのはどっち？」という課題を設定することで生徒の意識が焦点化され、また多様な意見が出され、三権の抑制と均衡の関係をより深く考えることができたと思われる。

(イ) 既習事項の活用を促すことで多角的に考えることができたと思われる。

個人テーマ 生徒の思考を深める授業展開のあり方

- 1, 題材名 1時関数の求め方 (章のまとめとして・・・2年生・10月)
- 2, 目標 あたえられた条件を満たす1次関数の求め方を説明できるようにする。(見方・考え方)
- 3, 学習の流れ

- ① 課題をつかむ。1次関数の式の求め方を説明しよう。
- ② 3つの条件の中から選択し、自分の意見を持つ。
- ③ 同じ条件を選んだもので構成する小グループで考えをすり合わせる。
- ④ グループの考えを説明しあう。
- ⑤ お互いの説明に対して質問や評価をする。

「自分の考えを説明できる」＝  
「理解している」と仮定・実践

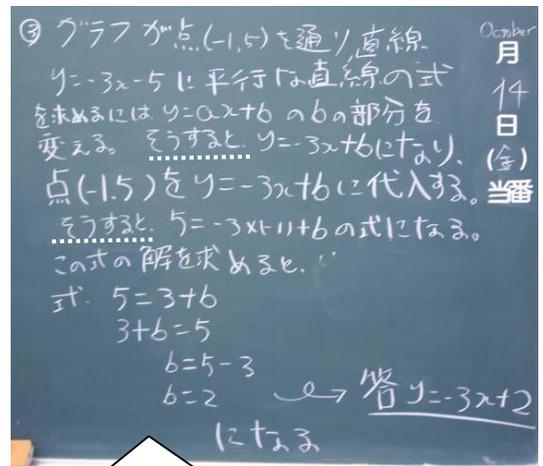
- 4 学力向上プランとの関係 (カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応)
  - ・言語活動を充実させ、根拠や筋道を明確にした表現活動を指導する。(→1)
  - ・小集団活動を活用し、多面的・多角的に思考したり自分の考えを深めたりできるよう指導する。(→2)

5, 成果と課題

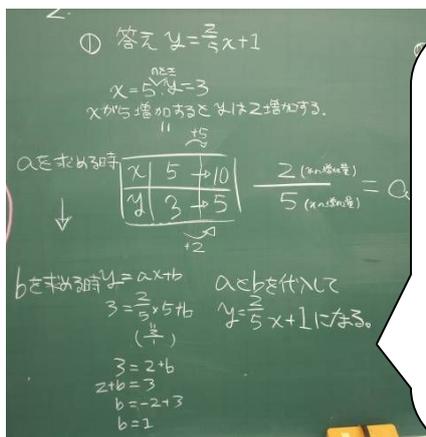
- 成果**・各グループ(3班+別解1)とも自信に満ちた表情で伝え、納得したと自己評価していた。
- ・説明にメリハリをつけているグループの発表を先にした。求め方の「説明の仕方」に不可欠な事項と不要または簡略化できる項目を区別しようと試みていた。
  - ・展開③で、生徒Aの説明(この時点では考え)がBを動かしまとめていた。説明ではBが無駄を省いて的確に説明をすることができた。(2人の小グループ)
  - ・中間テストでの該当問題の通過率はのべ40問中30問(75%・・・教科の平均は66%)

**課題**・考えを順序立てて話すときの接続詞(下図破線)は、伝える技術として教えておく必要がある。

- ・自分で解けると思う問題を選択させたが、自力で解決出来なかった生徒が4名。助言で何とか答えを出していたが、うち2名はグループ内で積極的に意見を言う姿が見られなかった。これは自信を持ってないことと説明する時間を授業で計画的にとっていないことが原因と考えられる。



生徒の板書と教師のコメント (後にプリントにして配布)



「aを求める時」や  
(yの増加量)といった  
コメントがポイントを押さ  
えるのに役立っています。  
いいですね。数学の武器で  
ある表や式をうまく使って  
います。できれば「aを求めるときは、変化の割合  
の式から2/5になる」といった文章の説明があれば  
初めて読む人にも伝わりやすいでしょう。

自分の考えを文章で説明してあります。読むだ  
けで意図が伝わってきますね。  
また後半は1次方程式を解くことを使って説  
明を簡略化しています。このように既習の事項  
を利用するときは、さらりと流すほうが大切な  
部分のはっきりとするので効果的です。

個人テーマ 学びあい、考えを深めることができる発問の工夫とノート指導

- 1 実施学年と実施日 1年生 9月13日(火) 4限目
- 2 小単元名 1章 光による不思議な現象
- 3 目 標
  - ・見えなかったコインが、容器に水を入れることにより見えてくる現象に興味をもち、進んで調べようとする。(興味・関心)
  - ・光の性質を意識して作図できる。(技能)
- 4 学力向上プランとの関係(カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応)  
予想する光の進み方を作図し、それをもとに説明する。(→1)
- 5 学習の流れ
  - ①導入 コインから出た光が目が届くまでを確認する。(光の直進性)
  - ②課題把握  
グループで実験。(小集団活動) 水を入れるとコインが見えるようになることを確認する。  
見えないはずのコインが見えるようになった理由を、光の性質から説明しよう。
  - ③予想する 水の中のコインから目が届く光線を予想してノートに作図する。
  - ④確認する 光が水と空気の境界面で曲がったことを確認する。
  - ⑤演示実験 水中から空気中にむかって光が進む道すじを調べる。
  - ⑥まとめ 演示実験からわかったことをまとめ、課題の現象にあてはめて考える。

## 6 成果と課題

(成果)

- ・興味を引く現象を先に見ることで、課題に対する目的意識を持つことができた。
- ・予想する際、図を通して考えることで、光の道すじを根拠をもって説明することができた。また、学習した内容(水面への反射、容器の壁による反射)を使いながら考えることができた。
- ・文章化する際の書き出しを指定することで、相手を意識する表現ができた。
- ・他の生徒の発表を聞く際、自分の考えと比べながら聞く様子が見られた。
- ・発問を小刻みにすることで、思考を整理し、課題をより明確にできた。このことから、光の進み方についてより深く考えることができた。

例) 発問1: 直接コインが見えるのはなぜか。→発問2: 容器に入れると見えなくなるのはなぜか。→発問3: どうして、水を入れると見えないはずのコインが見えるようになったのか。

(課題)

- ・作図を自由にかく生徒もいたので、例をしっかりと提示する必要がある。
- ・予想の発表の際、自分の考えと比較しながら聞くことはできたが、意見の交流に利用しきれなかった。より深い理解につながる話し合いのチャンスを逃した。  
→考えた作図をボードにかかせ、黒板上で意見を分類するなどの工夫。
- ・光の屈折を演示実験で確認する必要性が生徒にとって捉えにくかった。  
→予想で出た意見を議論する時間をつくる。
- ・自分の考えをまとめるという意味でノートを活かしていけないので、ノート活用の工夫が必要。

# 美術科実践レポート

道浦 浩幸

個人テーマ：他の鑑賞も取り入れ、高まりを感じる授業をめざして

1. 実践学年と実施日 2年生 10月25日（火）4限目

2. 題材名 校舎を描く（一版単色木版）

3. 目標

- ・木版画の技法を理解し、形などの表しかたを身につけ、意図に応じて材料や生かし方などを考え、創意工夫して表現する。（創造的な技能）

4. 学習の流れ

①本時の学習課題をつかむ。見本の作品からもっと奥行きを出すためにはどうしたらよいか。

掲示の絵を見て奥行きを出すにはどんな彫り方をすればよいでしょうか。

なんでそう思ったかも根拠を考えてください。

②彫刻刀の使い方や彫り方をやってみせる。

③どんな技法で彫るかを考え、前回の下絵を見て作品を彫り始める。

④他の生徒の彫り方を見て次回に生かす。

5. 成果と課題

成果

- ・教室環境に言語活動を取り入れ掲示した。
- ・先生の実演は口頭での解説は必要がなくそれだけで十分理解していた。
- ・資料を少しずつ出して見る生徒がわかりやすく興味がわいていた。

課題

- ・根拠という言葉が適切か。→理由と言う意味があるが、もっと広い意味もある。昨年度の言語活動の研究でよくつかった言葉である。
- ・彫り方の工夫の仕方を知った後、自分の彫り方のどこに生かしたいかを考えを発表させてもよかった。→ねらいの意図に応じて材料や生かし方を考える所から。どうしたらいいかわからない生徒が他の生徒の意見を参考になる。
- ・見本の作品のどこの部分をターゲットにするのか、部分なのか全体なのかわかりませんでした。→自作提示資料に記号を入れどれを使うか考えさせる方法もある。
- ・授業の最後に他の生徒の作品を見る時間をとった。もし時間がなければねらいに合った生徒作品を取り上げて一斉指導するのも有効だと思う。→ねらいを意識した作品づくりをしようとする気持ちが生徒に定着していく。
- ・単元の導入部で、なぜ、何をどのように作るのかを見通しをもたせることが必要である。

# 保健体育科実践レポート

吉延 孝治

個人研究テーマ 運動の正しい行い方を意識させる授業の工夫

1 実施学年と実施日 1年生 10月20日(木) 4限目

2 単元名 E 球技 ゴール型：サッカー

3 目標

- ・サッカーの苦手な生徒もボールコントロールがうまくできるよう基本技能の習得をはかり、自己の能力を最大限にゲームで活かせるようにする。
- ・交流体育ではサッカーを通して仲間とのかかわりを大切にするとともに、サッカーの苦手な生徒、女子でも楽しくゲームを進める中で、技能を高めることができる。

4 学力向上プランとの関係

- ・基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させていくために、作戦タイムでの言語活動を重視していくことが求められる。また、話し合いに参加すること(言語活動)などに意欲をもち、自己の健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方(個人研究テーマ)などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

5 学習の流れ

① 集合整列(健康観察) ② 準備運動 ③ ボールを使った練習を行い自己の力を知る。(評価)

④ 2人組でパス(インサイドキック)ドリブルからのシュート練習(評価) ⑤ゲーム ⑥振り返り

6 成果と課題(○参観された先生からのコメント●授業をふり返って指導者としての課題)

○よかった点

- ・常に励ましや、評価の声かけをし続けている姿勢がみられた。また多彩な準備運動メニューが用意されており、生徒が飽きずに楽しみながらチャレンジできていた。
- ・AやBをほめる場面を作っていた。生徒からもいい反応があった。また挨拶で声が小さかったのでやり直しをさせるなど授業規律を大切にしていた。

○言語活動の観点から課題

- ・コーンの間にボールを蹴り入れる練習で、出来た生徒にどうやったら入るか尋ねたが、結局教師の説明・解説になってしまっていた。生徒の解説能力を育てるのは、どの教科でも大変なんだと改めて感じた。

○ゲームあるいは全体の流れについて

- ・ゲームの中で基本練習がどう活かされたのか、あるいは活かしていくべきだったのかよくわからなかった。生徒はそのあたりが、なかなか自覚できないと思われるので、ゲーム中などに指導者の声かけ(指摘)によって意識させてやるなどすれば、意欲を持てるのではないか。

●授業をふり返っての指導者としての課題

- 指導者はあらゆる場面での生徒の動きを観察したり、うまくできない生徒がいた場合における適切な助言が大切になってくる。また場面に応じた的確なアドバイスをする必要がある。また説明や振り返りに時間をかけすぎると運動量の確保ができないのでポイントをしばっていく必要がある。

個人テーマ 「Writing の能力を伸ばす授業を目指して」

～筋道を明確にするための接続詞を生かした Writing～

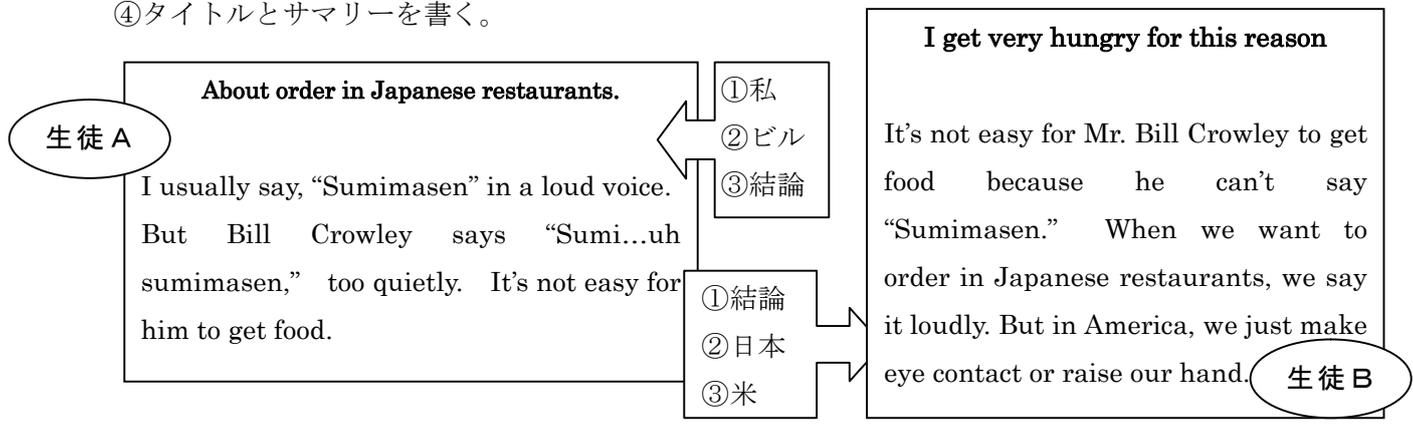
1 指導にあたって

生徒が特に苦手としている英作文（入試ではまとまりのある内容の英文5文以上）に対応できる力をつけることを目標に設定した。指導にあたって、根拠を内容、語彙、文法等ととらえ、筋道は構成やまとまりと考えた。発想力や語彙、文法などの知識を日々の授業の中でつけることはいうまでもないが、まとまりのある文を書くために、特に接続詞に焦点をあてた。

2 実践内容（成果を含む）

(1) 教科書 Reading for communication のサマリーを書く。

- ①英文を読んで内容を確認する。
- ②課題を提示する。本文を三行でまとめ、タイトルを考えよう。
- ③接続詞・副詞に着目させ、文章の構成をつかむ。
- ④タイトルとサマリーを書く。



- ・本文からキーセンテンスを選び出すことでもよいと指示したことで、英語の苦手な生徒への負担を軽減できた。
- ・「読むこと」を通して得た知識を「書くこと」に結び付けることができた。
- ・最初にどのような文で書き始め、どのように文をつなげ、いかに締めくくるか、文章を構成する力が大切になる。接続詞をクローズアップしたことと、国語科で学んだこと（「はじめ・なか・終わり」）が、本文の三文要約でも生かされていた。

(2) 4文の英作文演習でも「型」を与えることで、つながりのある文を書こうとする生徒が増えた。

- ①始めの文
  - ②1文目に関連して
  - ③But ～
  - ④So ～
- ※ゴシックは教師のなおし

①I ~~enjoyed~~ social studies. 中学の思い出  
*like*

②It was very interesting to take lessons ~~of~~ Mr.Yamashita.  
*from*

③But it's difficult for me to study social studies.

④So I ~~study social studies~~ every day  
*have to* *it*

生徒 C

3 課題

依然としてコミュニケーションに支障のあるミス（be 動詞の欠落や語順・用法の誤り）が多い生徒がいる。英語が苦手な生徒には、英作文で使いやすい用法（It 's for～ to…, make me 形容詞, want to～）やイディオムを整理して提示し、それらを運用させていきたい。

個人テーマ 個性に応じた「やった!できた!たのしい!」がある授業づくり

1 実 施 11月10日(木) 2限目

2 単 元 名 いろいろな魚に会いよう

3 目 標 生徒A 相手の意見を聞き、自分の意見と比べることができる。

生徒B 相手の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張することができる。

4 学力向上プランとの関係 (カッコ内の数字は「いしかわ学びの指針」との対応)

- ・やった!できた!経験や実感を持たせ、自信を持って活動することができるよう指導する。(→3)
- ・二人学級という特性を生かし、教え合い 学び合うことで、自立の芽が育つよう指導する。(→6)

5 学習の流れ

- ①本時の課題を確認し、本時の活動を確認する。
- ②クイズをして、前時までに調べた見どころを確認する。
- ③「行きたい場所ベスト4」を出し、自分の意見を持つ。
- ④話し合って、5つ行きたい所を決める。
- ⑤学習を振り返る。

6 成果と課題

成果

- ・クイズを導入として用いることことで、これまでの見どころしらべの振り返りができて、「行きたい場所ベスト4」をスムーズに選ぶことができた。
- ・自分の「行きたい場所ベスト4」を持つことで、相手としっかり話し合いをする理由ができた。それぞれ自分の意見を主張できた。
- ・二人が素直に意見を言えるよう、声かけや指示などはできるだけ少なくすることを心がけた。そして話し合いの結果を報告の形で聞き、合意形成がしっかりできているかを判断した。最初は合意形成ができておらず、再び話し合いにもどした際、相手の意見と折り合いをつけようとする姿が見られた。
- ・学び合い 学習を授業の中に取り入れることで、生徒Aは学習への参加意欲がでてきた。同時に、生徒Bが育ってきた。生徒Aを上手く導き、教えることができようになった。

課題

- ・合意形成を図るために、相手の意見をしっかり聞くという段階には至らなかった。また折り合いをつける方法を学ぶことも授業の中でねらっていたが、しっかり聞くことができていなかったため安易に「自分の行きたい所を2つずつ出して、最後の1つは二人で決める」という方向に流れてしまった。(最後の1つはよく話し合っていたが…)

→ (ア) 先生への報告の際、指導者が「しっかり聞く」の基準を持ち、再度話し合いに戻すこと大切であった。

(イ) 学習を振り返る際、相手の意見のよかった所を言うということを予告しておく方法が有効だったかもしれない。